



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

UATH(タイ)・中期計画推進状況について

UACJ(Thailand) Co., Ltd. 取締役社長

稲垣 公樹

2023年6月7日

株式会社UACJ



1-1. UACJ(Thailand) Co., Ltd.(UATH)の概要

東南アジア地域の基幹工場として34万トンに向けた体制強化を目指す

従業員数

約1,370人

生産品目

缶材、自熱交、
エアコン向けフィン材
その一般材

展開エリア

缶材: 26カ国
自熱交: 11カ国
フィン材: 8カ国

顧客基盤

約80社

- 東南アジア唯一の最新鋭アルミ圧延工場
- 需要伸長が見込まれるアジア圏へのアクセスの良さ
- 日系企業をはじめとした製缶メーカーとの信頼関係



UACJ (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

世界約26カ国
に販売

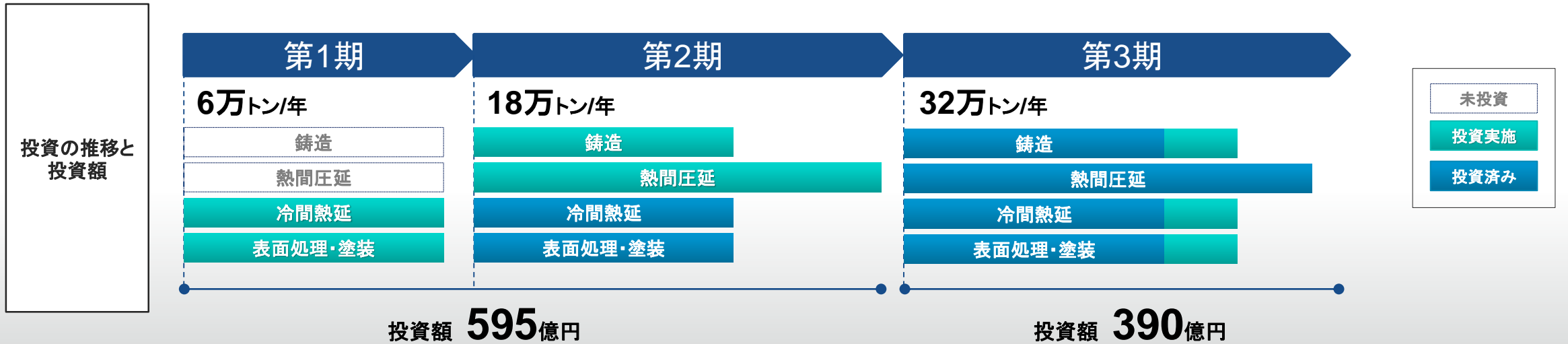
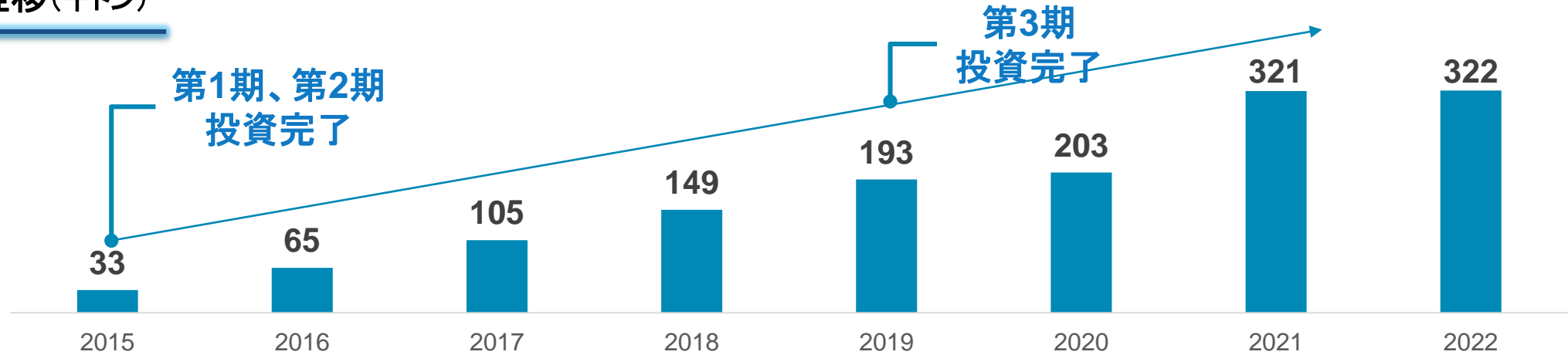
年間32万トン
の生産体制



1-2. UATH 投資と販売数量の変遷

旺盛な需要を取り込み、堅実な成長拡大を目指す

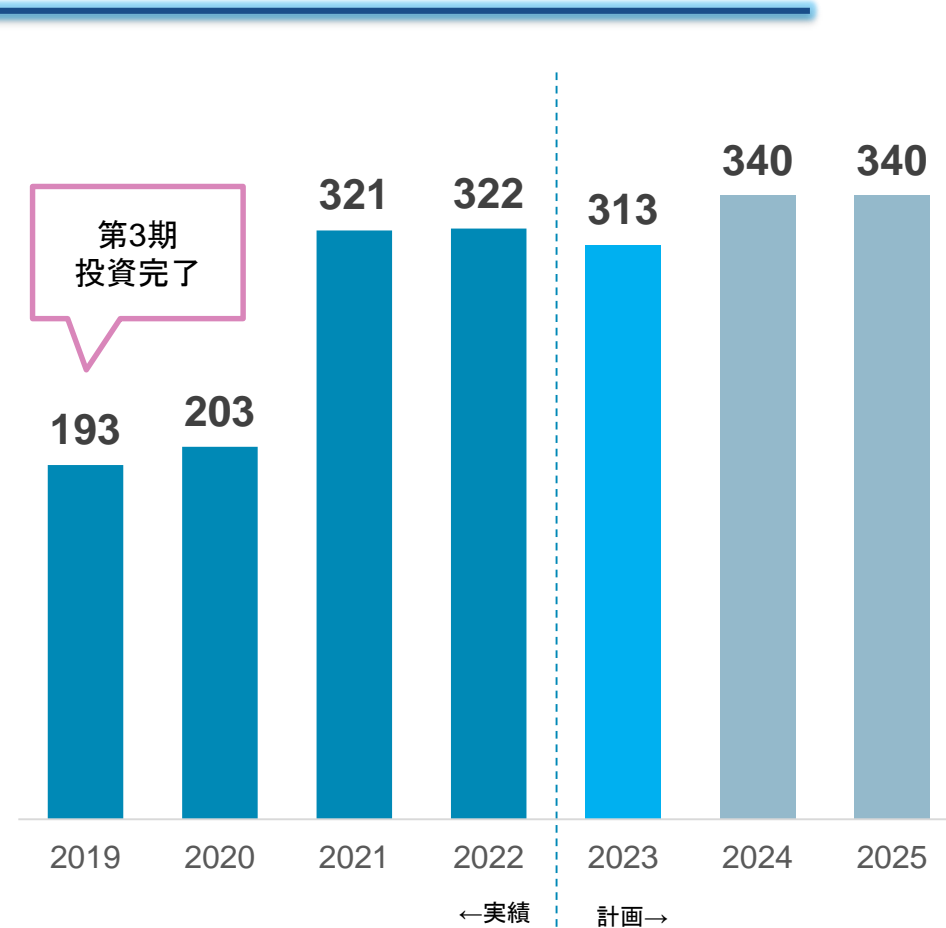
販売数量推移(千トン)



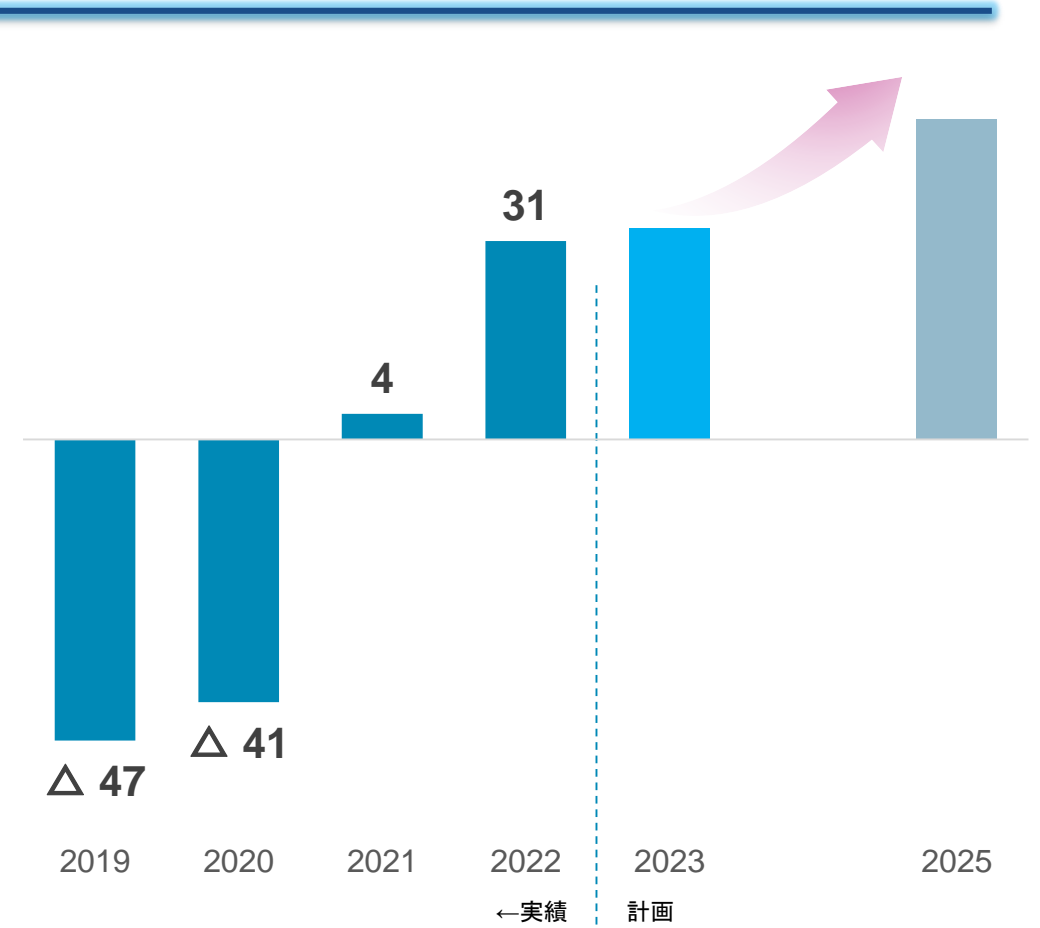
2-1. 販売数量、経常損益計画

2021, 2022年度は32万トン/年の販売を達成。2021年度以降、数量増・コスト低減で収益改善

販売数量推移(千トン)



経常損益(棚卸評価除き) 推移(億円)



3-1. 市場環境と当社戦略

市場環境

競合環境	(北米)2025~2026年、圧延ミル工場の新設が続き、供給環境に変化 (アジア)中国材・韓国材との競争激化を予想
缶材	年間平均5%程度の成長と予測
自熱交	ASEAN地域でのEV化は他地域に比べて緩やかと想定
エアコン フィン材	気候変動・世界的な人口増加によって安定的な需要増加を見込む

当社戦略

北米からタイ国内・東南アジア市場へのシフト

- 北米市場への供給は一定量の数量確保にとどめ、ASEAN中心にシェア増を目指す
- 東南アジア唯一の一貫工場として、最寄顧客に寄り添い、品質・デリバリーの優位性に加えリサイクル材活用での協力など価格以外のサービスを確立する

インド・中東・アフリカ・オセアニア市場の開拓

- 今後も成長が見込まれる市場の開拓を推進する

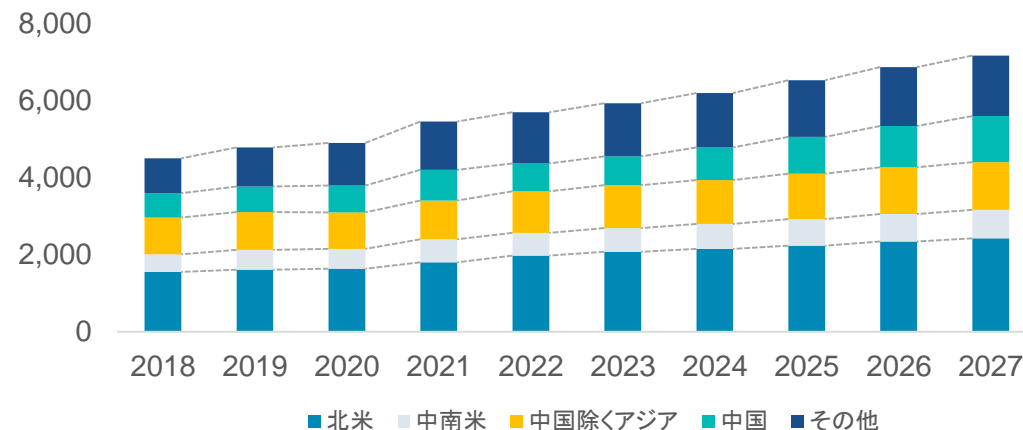
リサイクル推進

- 域内のUBCを回転させるクローズドループの構築で、環境対応力を当社の優位性につなげる

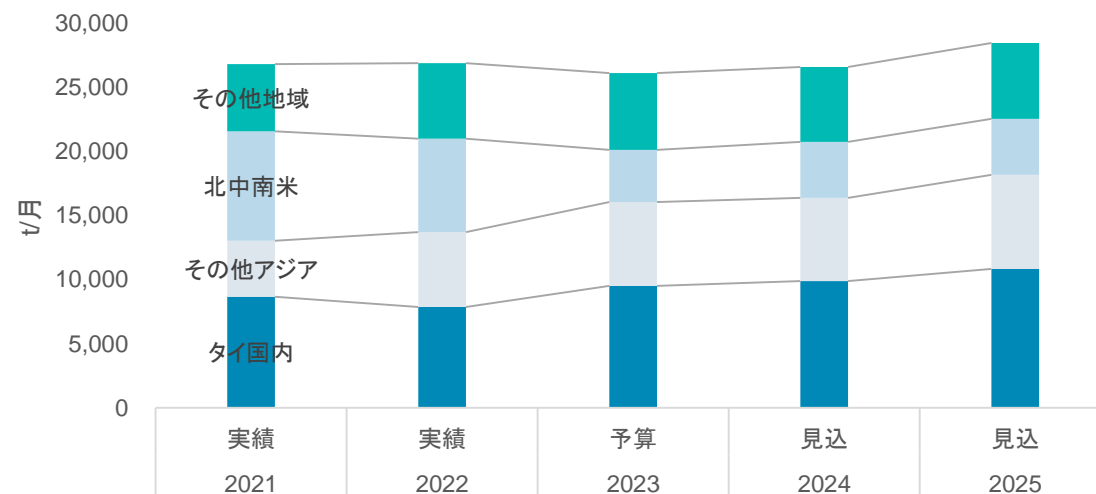
価格体系の適正化推進

- エネルギーサーチャージ等、お客様負担の価格体系組込みのご理解に向け交渉を継続する

缶材のグローバル需要



地域別販売推移



4-1. 中期計画 重点方針・重点課題

循環型モノづくりの完成を強みにした存在感のあるUATHの実現

重点方針

3期起業の効果を実現し
さらに現有設備を徹底活用

環境負荷低減推進に対応する
新技術の追求

重点課題

3期起業効果32万トン/年を超える
生産量に向けた能力向上

収益力向上 最適な品種・地域・顧客構成
新品种への取組み
コスト低減

スマートファクトリー化の実現
工場運営の現地化の実現

リサイクル技術の開発(スクラップ率向上)
低環境負荷塗膜技術、缶材軽量化

Can to Can Closed Loopの構築
ASI認証*取得(2022年3月取得済み)

4-2. 中期計画の推進状況

缶材生産能力強化、リサイクルループの確立で着実に循環型モノづくりの実現を加速

重点課題

3期起業効果32万トン/年を超える
生産量に向けた能力向上

収益力向上 最適な品種・地域・顧客構成
新品种への取組み
コスト低減

スマートファクトリー化の実現
工場運営の現地化の実現

リサイクル技術の開発(リサイクル率向上)
低環境負荷塗膜技術、缶材軽量化

Can to Can Closed Loopの構築
ASI認証*取得(2022年3月取得済み)

推進状況

➤ 能力向上

- ✓ 缶材用設備を中心に能力向上を推進。2023年度末目標:34万トン/年が視野に入る

➤ 収益改善

- ✓ タイを中心に各地域顧客浸透。2024年度以降は東南アジアシェアアップを目指す
- ✓ エネルギー他各種コストの価格体系実現。ベース価格アップを実現し収益拡大

➤ 運営体制

- ✓ 営業システムを基盤とし生産管理・製品設計システムへの拡充で業務効率化
- ✓ 各種人材教育プログラムの作成と開始。UACJでのタイ人幹部候補教育開始

➤ 缶材リサイクルループの確立

- ✓ リサイクル材用専用溶解炉の増強によるリサイクル材使用量増(2024年度初稼働)
- ✓ リサイクル材高配合に向けた缶ボディ材・エンド材合金の開発
- ✓ タイ・ベトナムでのUBC回収⇒購入によるClosed loop活動スタート
ASEAN域内唯一の缶製造工場をアピールし環境貢献の共感を得る

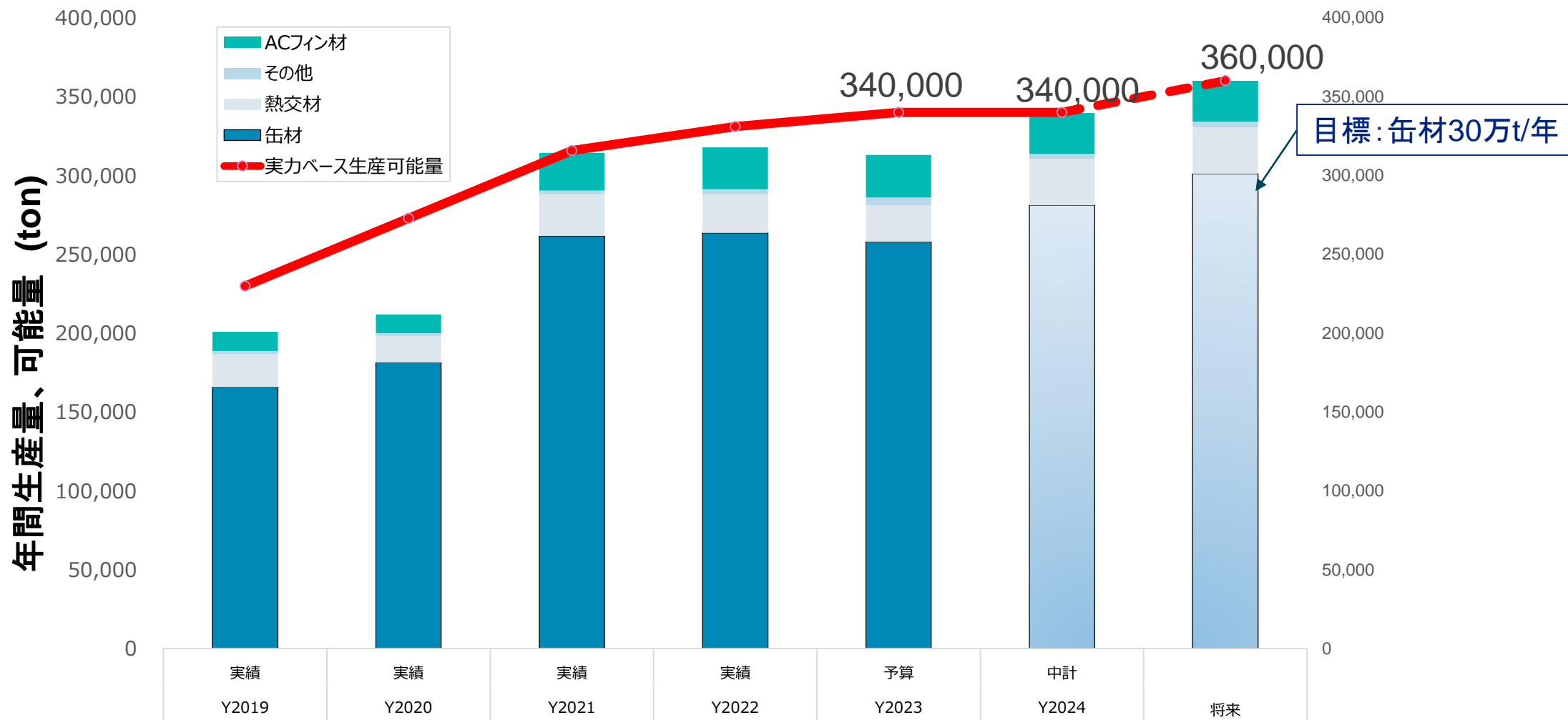
4-3. 中長期課題と取組み

	2023年度	～2025年度	～2030年度
生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 歩留改善の追求 ✓ 34万トン/年の生産対応の実現 ✓ 既存設備能力の追求 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 世界最高水準の生産性確立 ✓ 36万トン/年の生産体制確立 ✓ 既存設備の最大能力化対応 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 世界最高水準の生産性追求
収益性向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コスト低減 ✓ 販売価格の体系化推進 ✓ グローバル販売体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新製品開発と対応設備増強 ✓ 販売価格の体系化 ✓ 販売品種の最適化検討 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新製品開発拡大、設備の導入 ✓ 販売品種の最適化完了
工場のスマート化 現地化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 業務効率改善 (IoT活用、システム改善) ✓ 現地採用社員への業務移管推進 ✓ 階層別・業務別教育システムの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スマートファクトリーの完成 ✓ IoT活用による設備・システムの改善 ✓ 工場運営の現地化を確立 ✓ 教育施設の設立 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ DX化推進 ✓ 人員再配置の推進
環境対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リサイクル技術の開発 ✓ CO₂排出量・排水の削減 ✓ リサイクル関連設備増強 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 循環型サプライチェーンの構築 ✓ CO₂排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 循環型サプライチェーンの完成 ✓ CO₂排出量削減目標の達成
Can to Can	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Can to Can Loop構築Step1 ✓ UBC*の活用対応 ✓ リサイクル比率向上に向けた施策実現 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Can to Can Loop構築Step2 ✓ タイ国内での缶材水平リサイクル化拡大 ✓ リサイクル比率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Can to Can Loop拡大 ✓ 周辺国でのUBC*回収をシステム化 ✓ リサイクル比率の最大化

*UBC: Used Beverage Can

4-4. 年間生産量実績と生産能力の推移

2023年度に第3次中計目標の生産能力を達成し、将来は36万トン/年の生産量を目指す



5-1. 持続可能な社会の実現に向けて

東南アジアでのリサイクル循環スキーム構築を先導

2020年11月25日

タイ環境省にて取り交わした飲料容器全般に関する覚書



20年11月25日の環境大臣会見

2024年予定
新リサイクル材用処理炉稼働

社内アルミ缶回収活動の推進
国全員参加で環境対応による社会貢献を意識



Can to Can Closed Loop の取組み

ASEAN域内のClosed Loopの要として社会/顧客/当社の利益となるビジネス構築を目指す
タイ製缶大手と共にタイ政府/業界関係者を巻き込んだ活動を展開中

2021年12月7日

UBC購入、Closed Loop促進に関する覚書



21年12月7日の覚書調印式
環境省からも高官が同席

環境循環に貢献する企業としての社会的認知を向上

ASI認証

- PS: 認証取得 2023年1月5日 / COC:2022年3月10日 本認証取得
- 調達ガイドラインをGr全体で策定、サプライヤーにも協力要請

2022年6月16日

ベトナムにおけるUBC購入、Closed Loop促進に関する覚書



5-2. 缶材リサイクル対応 / No.4 サイドウェル炉(4SWF)の導入

サーキュラーエコノミーの心臓を目指して、アルミ缶リサイクル設備導入を促進

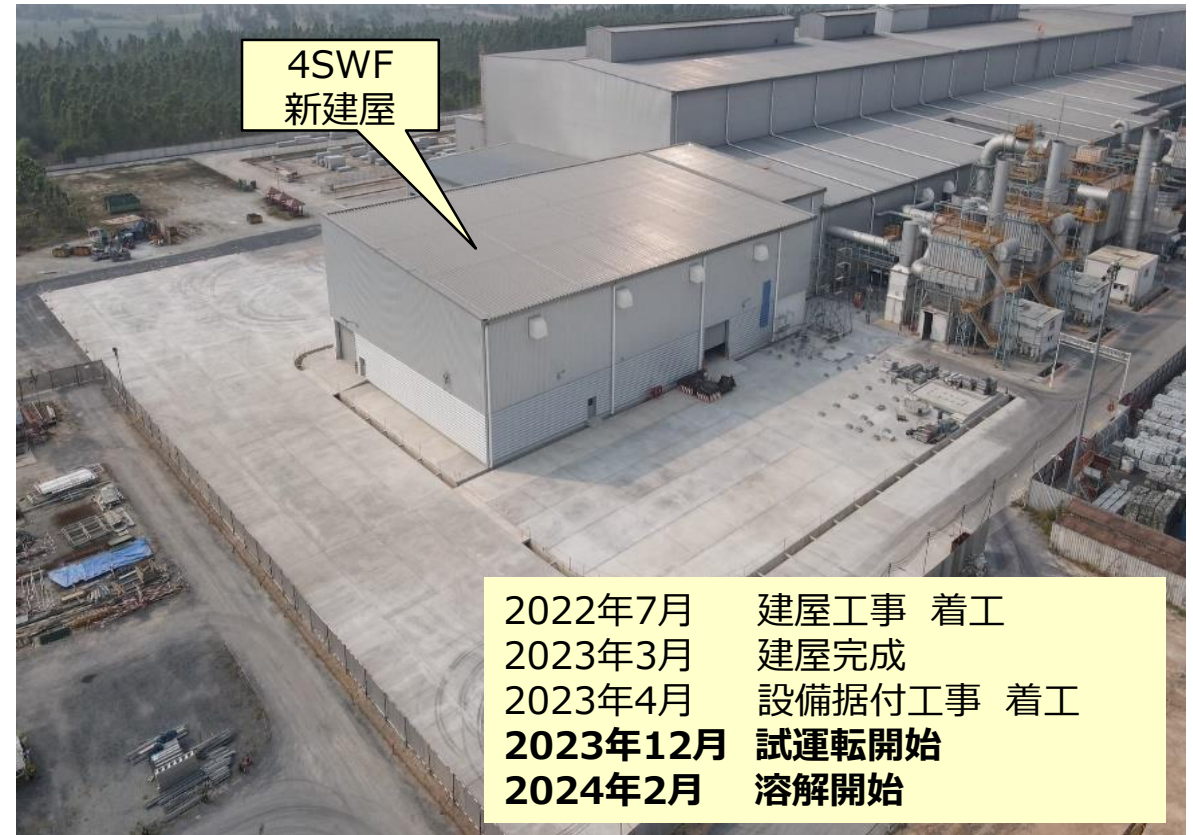
4SWF 主な仕様

型式 : サイドウェル式溶解炉* (Side Well Furnace)
溶湯収容量 : Max120ton ※UACJグループ最大容量

効果

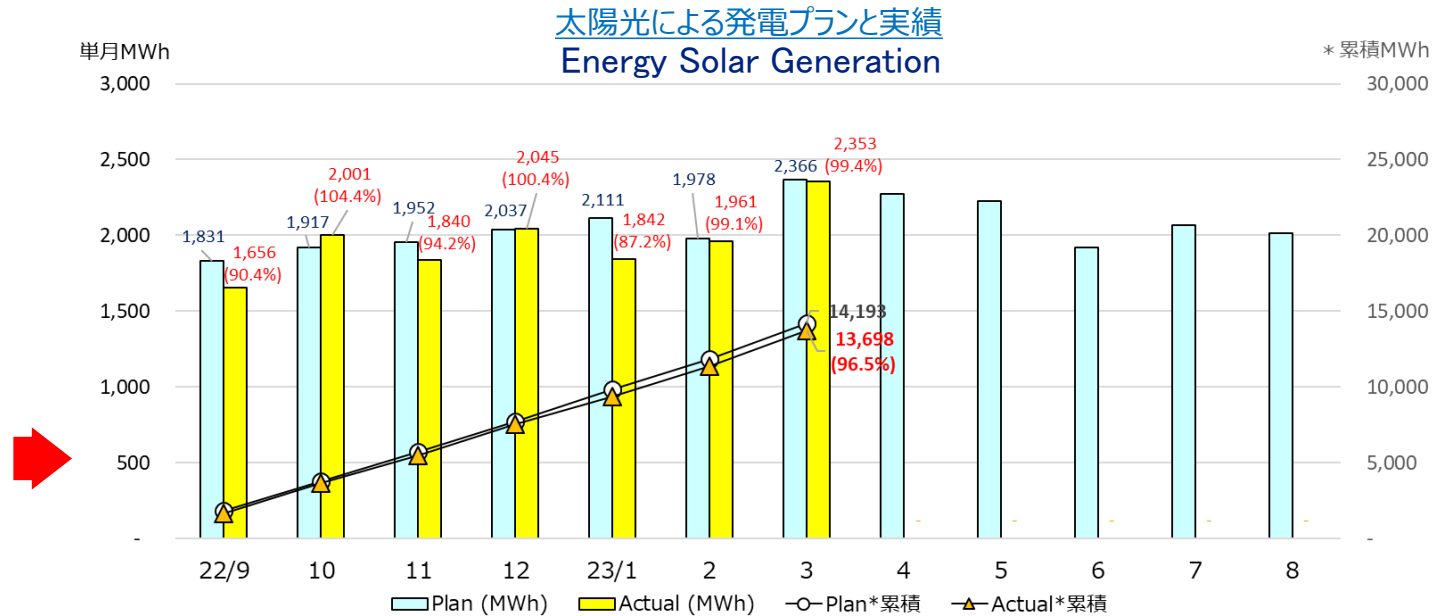
リサイクル原料の使用量を増やし、缶材CO₂排出量を低減。
缶材製造にかかるCO₂排出量低減効果は、 **-29,533 t/月**

進捗と今後の予定

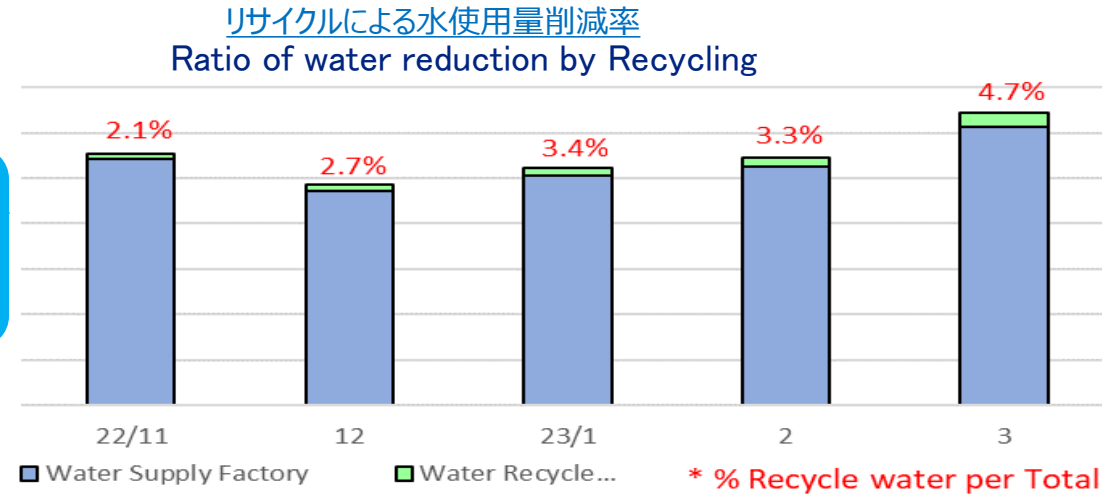
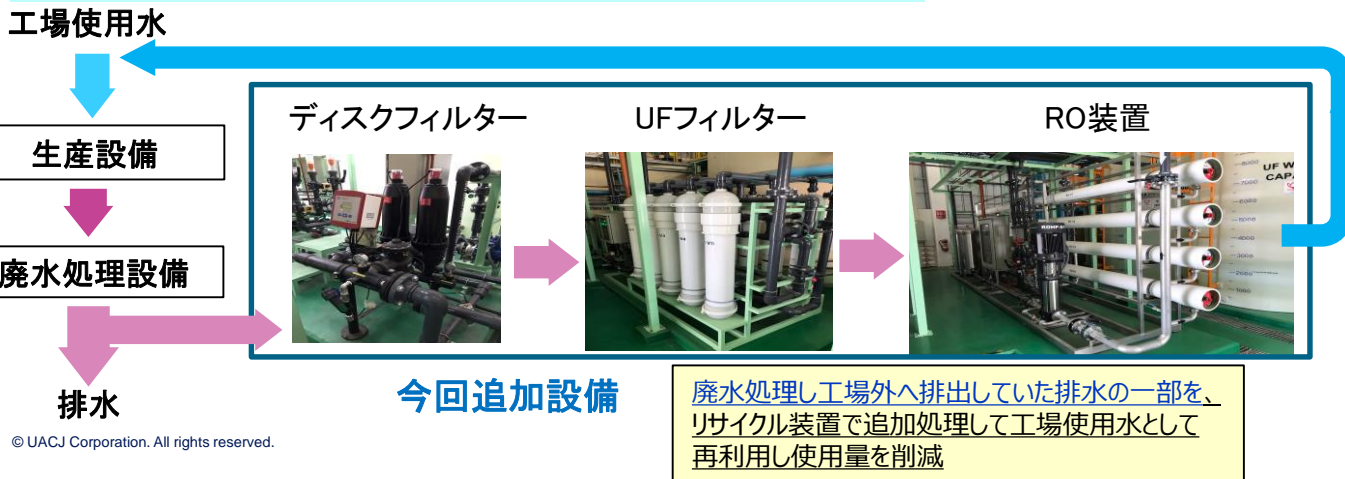


6-1. その他環境対応

①太陽光発電システムの導入：2022年9月 発電開始



②水リサイクルシステムの導入：2022年11月 稼働開始



リサイクルする排水種の拡大など更に水資源使用削減の施策追加を進める



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界